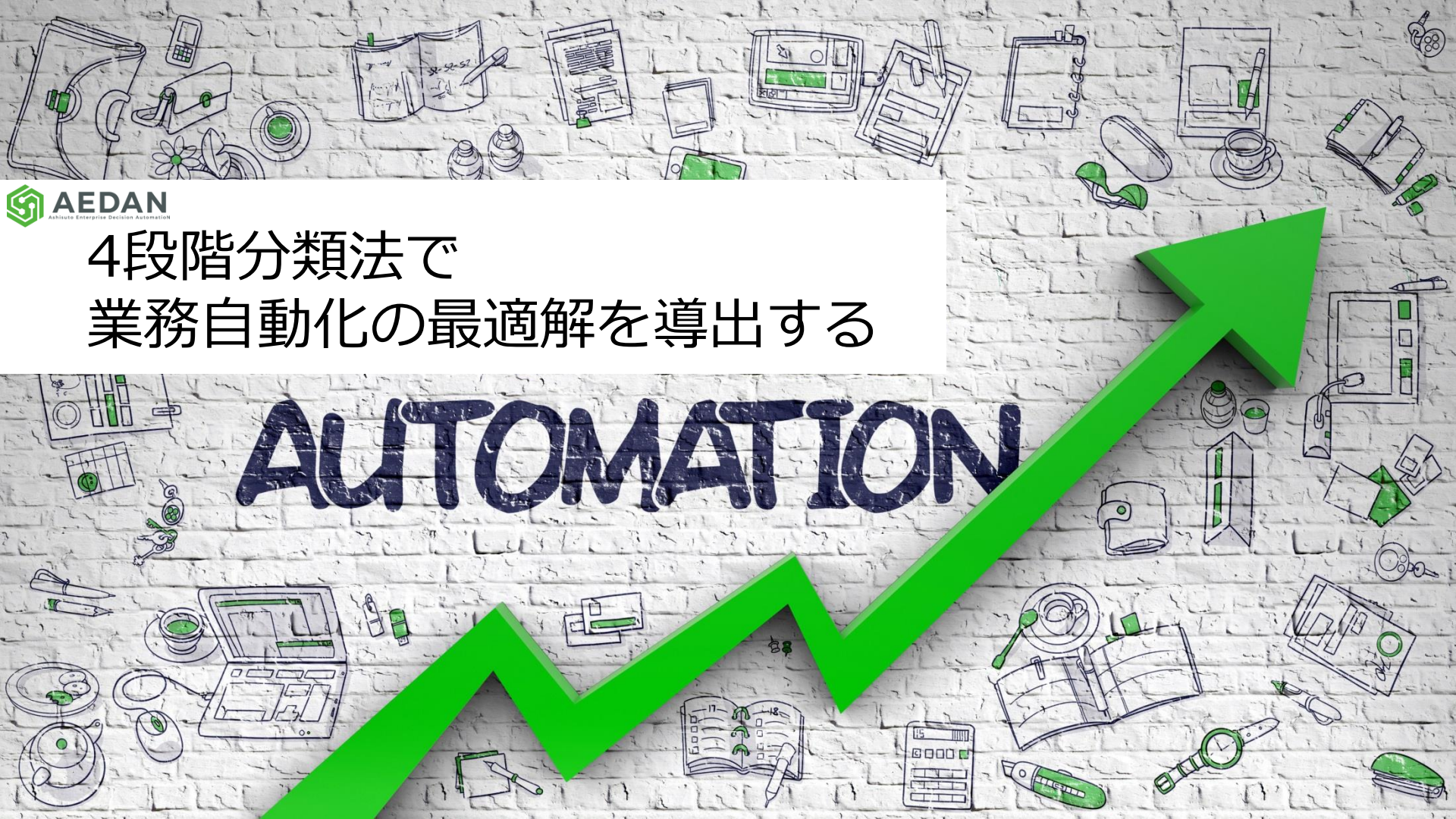
AEDAN
Ashisuto Enterprise Decision AutomatioN

4段階分類法で
業務自動化の最適解を導出する



業務自動化の最適解を導出するために



RPAを耳にしたとき、増加の一途をたどる単調タスクを効率化する夢のような仕組みと印象を持たれた方が多いかもしれません。しかし、RPAツールは決して万能ではなく、ツールが適している業務と適さない業務が数多くの事例より見えてきました。

業務自動化プロジェクトを成功させるためには、ツールの得意・不得意分野と自動化対象業務を検討・設計時より意識して取り組むことがポイントです。

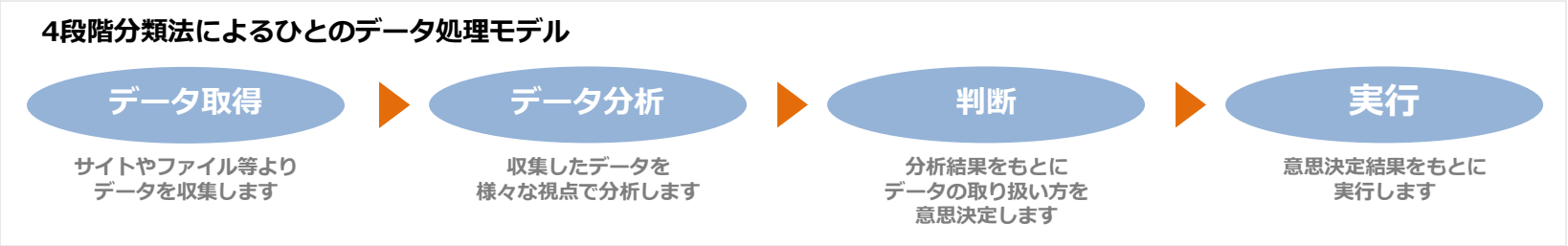
本書では、データを取り扱う業務タスクの自動化を検討する際、データに対するひとの行動を４段階に分類し、そこから最適解を導出するための考え方を簡単に記述します。

業務に於けるデータ処理の段階を知る①

ひとは、日々様々な場面でデータを処理する場面に遭遇します。

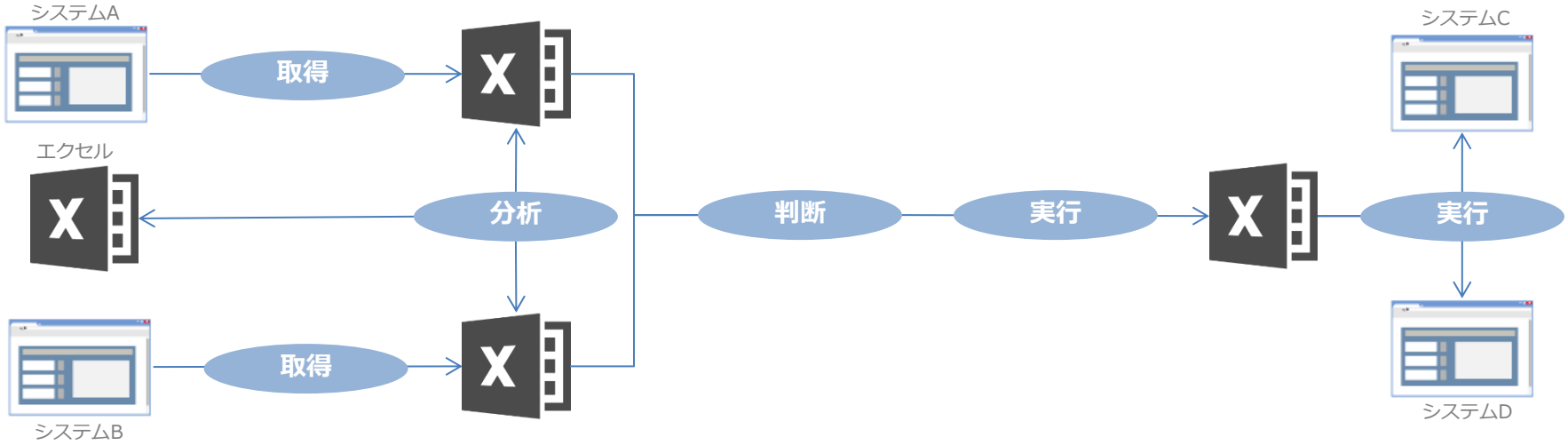
データを取り扱う業務の自動化の検討時には、まず該当業務を段階で分類し、属人性、信頼性、負荷、
コスト等を把握した上で、自動化戦略を検討することが最も重要です。

基本的に、データ処理時のひとの行動は、以下の４段階に分類できます。



業務に於けるデータ処理の段階を知る②

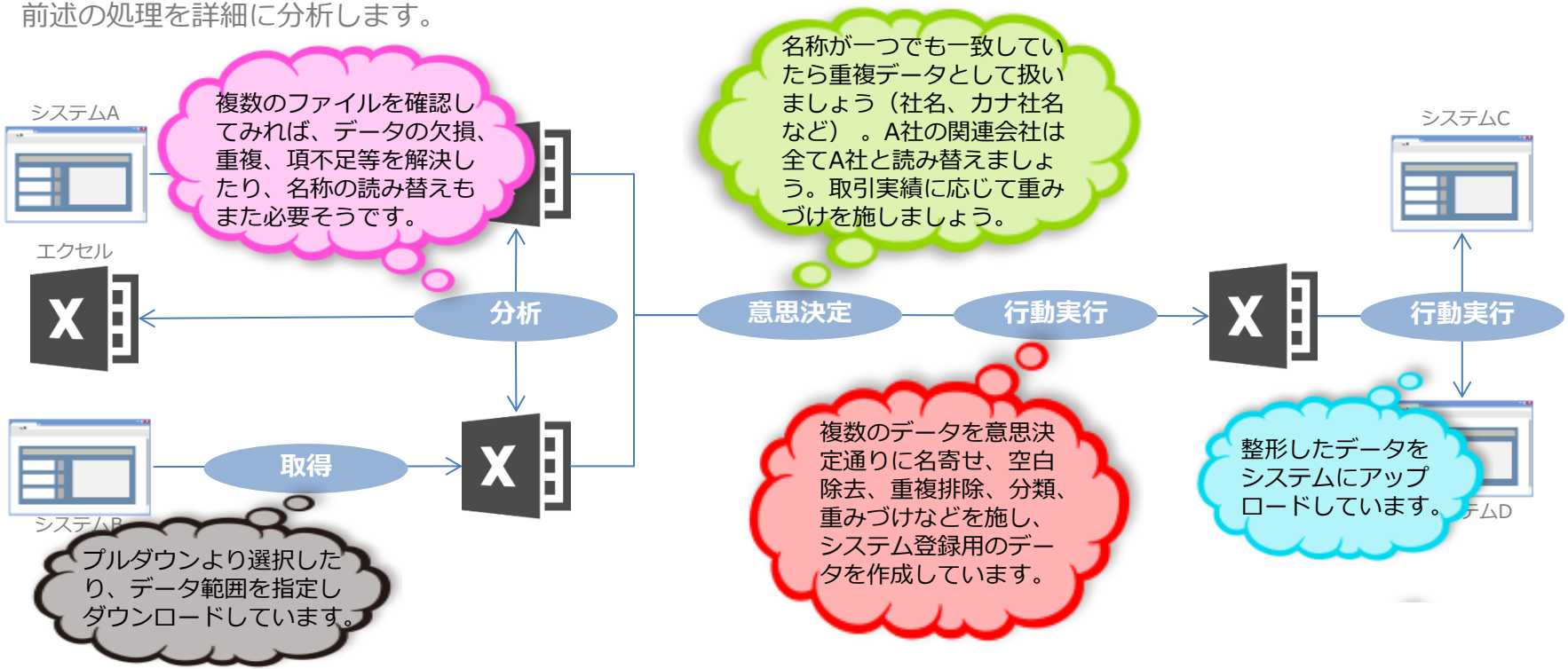
ある業務を例に考えてみましょう。まず、システムより取得したデータと個別台帳など手持ちのデータを
突合します。次に様々な加工を施し、別システムに登録するような業務を4段階分類法で示します。



システムのデータと部門管理の台帳データを突合し、様々な処理を施して次のプロセスに反映させる業務です。
このようなプロセスは、事務手続きに数多く存在しています。

業務に於けるデータ処理の段階を知る③

前述の処理を詳細に分析します。



属人性、信頼性、時間を4段階分類法で可視化する

属人性、信頼性、時間を4段階で可視化すれば、潜在的な課題と業務に与える影響が浮き彫りになります。
以下の表は、潜在的な課題を4段階分類法で分析し、課題に対する代表的なソリューションの段階適合を表に纏めたものです。

例　入金消込業務（某社）

段階	属人性	信頼性	作業時間（例）	割合	RPA	EAI	推論型AI
取得	低	低	**3分**	**5%**	**O**	△	×
分析	高	高	**12分**	**20%**	×	△	**O**
判断	高	高	**32分**	**53%**	×	×	**O**
実行	低	中	**14分**	**23%**	**O**	**O**	**O**

自動化対象業務を4段階分類した結果、分析、判断段階の重要性が高い場合、AIを中心に自動化戦略検討します。
また、取得、実行段階の重要性が高い場合、 RPAツールまたはEAIを中心に自動化戦略検討します。

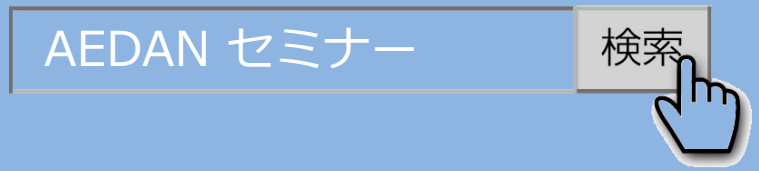
業務自動化へのアプローチは業務の種類やRPAツールありきで設計すべきではなく、分類段階毎に最適な自動化手法を決定するか、プロセス全自動、最も効果の得られる部分のみ自動など、費用対効果を見極めて実施することが大切です。

その他リソース

エンタープライズRPA AEDAN ホームページ
https://www.ashisuto.co.jp/product/category/brms/aedan/

推論型AI Corticon ホームページ
https://www.ashisuto.co.jp/product/category/brms/progress_corticon/

その他資料のダウンロード
https://www.ashisuto.co.jp/product/category/brms/progress_corticon/download/





© 2019 K.K.ASHISUTO. 著作権は株式会社アシストに帰属します。All rights reserved. 無断複写・転載を禁じます。

https://www.ashisuto.co.jp/　　E-Mail : progress@ashisuto.co.jp